

広報活動について

東北地質調査業協会

広報委員長 齊藤 芳徳



東北地質調査業協会に広報委員会が設置されてから、もうすぐ一年が経過しようとしています。この委員会は、協会活動の対外的なPRを通じて、業としての存在感と地位向上に役立てようと言うことを主目的にしています。また種々の情報交換に

よって、協会員相互の意識向上に役立てようと言うことも目的の一つです。やや大上段に振りかぶった感じですが、このような目的の達成に一步でも近づけるために、13名の委員で試行錯誤しているところです。

現在のところ地質調査業は、建設事業における役割の大きさや貢献度、技術的な進歩に比して、その社会的な地位は決して高いと言える状態までは至っていません。勿論、関係の深い官界、学会、産業界の方々には良く理解して頂いている訳ですが、ほんの一部の人に過ぎません。専門的な色彩の濃い分野の業種で、かつ市場規模が小さい等の様々な理由があり、一般社会の人達に認識してもらうにはかなり困難な側面を有していることも事実です。また時には、関係が深いと思われる建設分野の人達にも、充分理解されているとは言いがたい場面に遭遇することもあります。このような現状が、人材確保や経営体質の改善等の業界全体の問題に結び付いているものと思われます。

業としての性格に係わる本質的な問題が多く、一夕一朝には解決できませんが、幸い現在は情報化社会であり、各種の情報メディアを通じて業としての存在をPRし易い時代にあります。広報委員会でも協会誌「大地」を年4回発行し、各界の方の業界に対する意見と業務を通じた技術成果報告を目玉として掲載しています。これを協会員はもとより各官

庁、学校関係等にも配布して、業界活動のPRに努めています。また適正なフィーを獲得するための積算資料の説明会の開催も実施しています。

我々の業界は、ソフト部門や調査技術の急激な発達と変革に対して、基となる調査ボーリングの機械自体はここ10数年来余り変化していない面白い業界でもあります。しかし技術者のOA志向も含め、今確実に一つの転換期にさしかかっているのではないのでしょうか？業界全体の技術力の向上によって社会的な貢献度をより高めることと、一人一人の積極的な広報活動への参画が業界の地位向上につながるものと思います。

広報委員会の活動が、この一助となればと願っています。協会員の皆様の広報委員会に対する御理解と応援、建設的な御批判と助言をお願いする次第です。

